

令和5年度 自己評価書

学校名

北海道厚真高等学校

1 本年度の重点目標

重点目標(スクールポリシー)

- 育成を目指す資質・能力に関する方針
 - ・自ら進んで学習に取り組む人の育成
 - ・適切な言語活動をととして自己実現力を高めた人の育成
 - ・広い視野と高い社会性を身につけた人の育成
 - ・豊かな感性と寛容の精神を兼ね備えた人の育成
- 教育課程の編成及び実施に関する方針
 - ・基礎・基本の定着と学習基盤の育成
 - ・学ぶ喜びを実感する授業づくりの推進
 - ・豊かなコミュニケーション能力の育成
 - ・キャリア教育の充実
 - ・地域の教育力を活用した取組

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
学習指導	・自ら進んで学習に取り組む人の育成 ・基礎・基本の定着と学習基盤の育成 ・学ぶ喜びを実感する授業づくりの推進	(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組等に係る肯定的な回答が70%以上となることを目指す。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)	A	B	肯定的回答85.4%、前年度89%と比べ減少。職員の取組は3.4で0.1低下。学習に向かう姿勢の乏しい生徒がいる。職員の異動により減少も伺える。
		(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%となることを目標とする。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする)	B	B	肯定的回答45.1%、前年度47%と比べ減少傾向にある。職員の取組も3.0と低い。オンライン学習も活用しているが家庭学習の啓発を実施したい。
		(指標) 授業の途中退室について、1人あたり前年度比減を目指す。 (前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	A	A	実人数238名、前年度345名、前年度と比べ大幅に改善。職員の取組は3.5であり次年度も改善できるように取り組む。
生徒指導	・広い視野と高い社会性を身につけた人の育成	(指標) 朝の遅刻を、1人あたり前年度比減を目指し、指導啓発を行う。 (前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	B	A	・実数は248名であり、前年度251名と比べて若干減少した。職員の取組は3.5であり、朝の出迎え活動、集会を活用した啓発指導など、今後多面的な取組を積極的に進める。
	・豊かなコミュニケーション能力の育成 ・豊かな感性と寛容の精神を兼ね備えた人の育成	(指標) いじめアンケートで、「いじめはどんな理由があっても許されない」との回答率100%を目指し、そのための啓発指導を行う。 (回答の割合が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満は評価Cとする)	B	A	・「そう思う」との回答87%、「わからない」が若干名。職員の取組は3.7と高い。次年度も100%を目指していじめに対して組織的な対応の充実を図る。
進路指導	・適切な言語活動をととして自己実現力を高めた人の育成	(指標) 進学・就職希望の年度内進路決定率を100%とする。 (内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	A	A	・進路決定100%、職員の取組も3.7と高い。次年度も個別の職業指導も含め、継続的に職業観・進路意識を涵養し、早期に取り組んでいく。
	・キャリア教育の充実	(指標) 生徒の資格・検定取得等の取組として受検率100%を目指すとともに合格率の向上を図る。 (受検率が80%以上であれば評価A、60%以上が評価B、60%未満を評価Cとする)	A	B	・95.6%(前年65.3%・前々年97%)であった。1年生92.3%、2年生95.2%、3年生100%。食品衛生責任者講習の年度は高い傾向。全体の合格率は43.2%に対し職員の取組は3.2。合格率向上を図る必要がある。

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・学習指導について、本校の「スクールポリシー」を育むために、生徒の実態に即した取り組みを進める。
- ・生徒指導について、家庭との連携に努め、全教員による日常指導や予防的活動で規範意識を育成する。
- ・進路指導について、望ましい職業観を育み、進路意識を高め、資格・検定取得へ積極的な取組を涵養する。